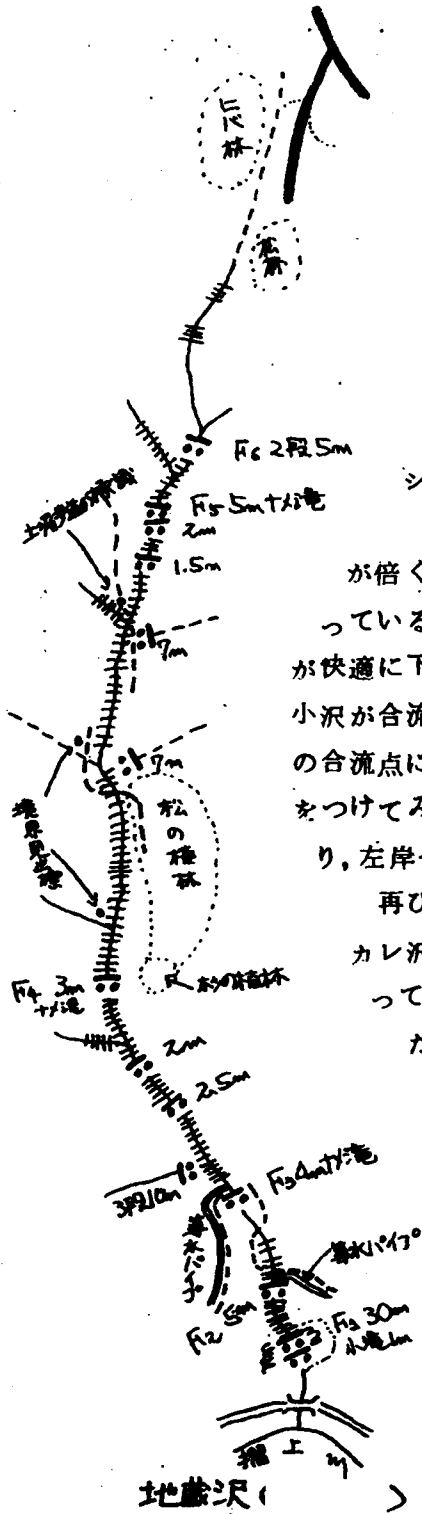


地蔵沢(下降)

1982年8月29日

Lj



尾根からトラバース気味に下降する。沢に降りたが、水流はない。ただ所々に水たまりがあって、サンショウウオがおよいでいる。完全に水がかれきってしまうこともないようだ。

しばらく下ると沢に水が出てきて、ナメが出てくる。かなり傾斜のあるナメである。左岸から小沢が合流する。すぐ下にはF6 2段5mがある。ブッシュにつかまって下る。下もナメである。

沢が左へ曲がると二俣である。水量は、左俣の方が倍くらいもある。ここからF1まで、所々土砂でうずまっているものの、ずっとナメが続く。F5 5mナメ滝は急だが快適に下れる。小滝を越えて更に下ってゆくと、右岸から小沢が合流する。沢の形は立派だが、水量は極少である。この合流点に「土堀歩道」と書かれた営林署の標識がある。気をつけてみると踏跡が右岸山腹を下ってきて、ここで沢を渡り、左岸ぞいに続いている。

再びナメを下ってゆくと、左岸から7mの滝をかけてカレ沢が入り、そのすぐ先で今度は右岸からカレ沢が入っている。この合流点には、営林署の境界見出標があった。このすぐ下から、左岸は松の植林地となる。そのすぐ下でも1本右岸から小沢が入るが、ここにも営林署の境界見出標があった。

松の植林地が杉になって、植林地も終わる所に、F4ナメ滝3mがある。さらに小滝を2つ越えてゆくと、F3ナメ滝4mがあり、右岸をクライミングダウンする。左岸なら簡単に下れるのに、ちょっと難しい所を通ろうとするのも、また楽しい。この滝の上に、農業用水だろうか、この沢の水をとっている取水口があって、右岸を導水路が走っている。

F2 5m。この滝の上からもビニールホースで取水している。樹を使って右岸を降り、左岸にトラバースして下る。すぐにF1 30m。ザイルを2本用意してきたから、アップサイレンにでも降りられたが、ザイルを出すのも面倒なので左岸を捲く(空中懸垂になったようだ)。水が少ない(この沢にはかなりの水量があるが、途中で取水されてしまう)ので、あまり滝も大きく感じられないが、茂庭にはめずらしく大きな滝である。すぐに国道399号の橋に着き、道路にあがって地蔵沢の下降は終了。(記。)

下降開始(9:10)——終了(11:15)

小深谷沢

1982年8月29日

L:

小深谷沢橋より入深。フェルトワラジを着ける。すぐにF1 3mトヨ状ナメ滝が現われる。滝の上もナメ。更に小滝が2つ続いて、出だしは上々である。

クロスズメバチの巣があった。この前的大雨で土砂くずれが起き、巣が露出している。そこをスズメバチにおそわれたのだろう。弱りきった2、3頭のスズメバチがうろつき、巣の断片が散乱している。クロスズメバチは残った巣の断片にかたまっているが、巣の大きさからいってその数は極端に少く、また当然いるはずの幼虫や蛹の姿はない。スズメバチによるさまざまの攻撃と略奪のありさまが想像されようというものである。西さんが落ちていた巣の断片を拾いあげたら、たまたまそれについていた1匹のハチに刺されてしまった。

左岸に大岩がある所を過ぎると沢は全く平凡となった。左岸に大きなガレ場を見、行手をふさぐ倒木をのりこえて進むと二俣となる。ナメになっていて、左はほんの少しの水が流れているだけ。右の本流を進む。

3mのナメ滝を軽く越えて少し進むと、小滝が連続してある所に来た。1~3mのものばかりなので次々と楽に越えてゆける。ここを突破

